



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	平岡ボデー株式会社 菊川プレス工場増築工事	BEE	0.76	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	1.5	/5	がんばんろう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5	がんばんろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5	/5	がんばんろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.0	/5	がんばんろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつう 3点以上	がんばんろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	1.5
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) 天井を高くし、プレス機等から発生する熱がこもらないようにした。 ケーブルラック等を使用し、配線の更新が容易に行えるようにした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) 周囲の緑地帯を十分に確保し、既存の緑地帯を減らさないよう配慮した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) トップライトやハイサイドライトを設け自然光を取り込む計画とした。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 再生砕石の利用など、再資源の利用に努めた。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>	<p>① 外皮性能</p> <p>② 昼光利用設備</p> <p>③ 昼光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>	
	<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) トップライトやハイサイドライトを設け自然光を取り込む計画とした。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>
	<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) トップライトやハイサイドライトを設け自然光を取り込む計画とした。</p>	<p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p>	<p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p>
	<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) 再生砕石の利用など、再資源の利用に努めた。</p>	<p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p>	<p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p>
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 緑地の確保、駐車場の確保、その他法令・条例に準じた設備としている。</p>	<p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 建築基準法に定められた耐震性を有する</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>	<p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p>	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	2.5
<p>■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) 階高を高くし、壁長さ比を小さく空間の確保をした。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯⑰ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑳ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ㉑ 空間の形状・自由さ</p>	<p>⑯⑰ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑳ 階高のゆとり</p> <p>㉑ 空間の形状・自由さ</p>	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒地域性・アメニティへの配慮)</p>	<p>Q-3 3 3.1 ㉒ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	<p>㉒ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.0
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) 緑地の確保、駐車場の確保、その他法令・条例に準じた設備としている。</p>	<p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ⑥ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ まちなみ景観への配慮</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>	
<p>■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善)</p>	<p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	

CASBEE[®] - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	平岡ボデー株式会社 菊川プレス工場	階数	地上2F
建設地	静岡県菊川市加茂1300-5	構造	S造
用途地域	工業専用地域・防火地域指定なし	平均居住人員	30人
地域区分		年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2025年12月 0.0	評価の実施日	2024年10月9日
敷地面積	36,315 m ²	作成者	大石直正
建築面積	17,649 m ²	確認日	
延床面積	27,884 m ²	確認者	

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 61%
③上記+②以外の: 61%
④上記+: 61%

46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項

総合	その他
敷地内は、敷地境界から建物までの離隔距離を十分に確保し、周囲には緑地帯を設け、周辺環境に配慮した。これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	0
Q1 室内環境 天井を高くし、プレス機等から発生する熱がこもらないようにした。	Q2 サービス性能 階高を高くし、壁長さ比を小さくし空間の確保をした。ケーブルラック等を使用し、配線の更新が容易に行えるようにした。
Q3 室外環境(敷地内) 周囲の緑地帯を十分に確保し、既存の緑地帯を減らさないよう配慮した。	Q1 室内環境 周囲の緑地帯を十分に確保し、既存の緑地帯を減らさないよう配慮した。
LR1 エネルギー トップライトやハイサイドライトを設け自然光を取り込む計画とした。	LR2 資源・マテリアル 再生砕石の利用など、再資源の利用に努めた。
	LR3 敷地外環境 緑地の確保、駐車場の確保、その他法令・条例に準じた設備としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される